

では野生動物や遊牧民が国境を越えて往来してしまいうため、周辺国あるいは大陸全体の協力無しには口蹄疫撲滅は困難であるというアフリカ研究者の訴えが印象的でした。大陸アジアにおいても同様のことがいえると思います。また、会場はメイン会場とサブ会場に分かれていたため、全てを聴講することは出来ませんでした。私が主に聴講した会場では診断法の開発および検証、次世代ワクチンの開発、ワクチンの評価法および抗ウイルス剤に関する発表があり、大いに刺激となりました。

また、2009年11月にドイツのBrehmらにより、山羊の舌上皮細胞(ZZ-R 127)が口蹄疫ウイルスに高い感受性を示すことが発表されましたが、今回の本学会の演題においても取り上げられていました。個別に聞き取りをしたところ、多くの研究所で既に使用されていることがわかり、株化されているので使い勝手も良いという評判でした。そこで帰国後まもなく国際重要伝染病研究チームでも導入許可の伺いを立てています。また、本学会への参加により、今後につながる人的交流の機会を得ることが出来たことも大きな収穫となりました。

TOPICS

アグリビジネス創出フェア2010

平成22年11月24日から26日の3日間、幕張メッセにおいて「アグリビジネス創出フェア2010」が開催され、大学、民間、独法など182機関の出展と過去最高の26,854名の来場者がありました。動物衛生研究所の展示ブースにおいては、①PCR法による鳥インフルエンザウイルスの迅速な亜型判別法、②プリオンの感染性を高感度かつ迅速に検出する遺伝子改変マウス、③タンパク質の段階的な発現法、④遺伝子組換えカイコ絹糸におけるブタリゾチームの生産、⑤携帯型の牛用脳幹機能測定・解析装置の開発、⑥危機管理型家畜伝染病発生地図表示システムの6テーマのパネルと関連機器やキッ

トの展示並びに動衛研紹介ビデオの映像展示をしました。また、動物衛生研究所との共同研究による「富士平工業株式会社：人工授精・受精卵移植兼用ブタ子宮深部注入用カテーテルの開発」が平成22年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰「(社)農林水産技術情報協会理事長賞」を受賞しました。当所のブースには企業、個人、大学、公的機関など様々な方が訪れ、3日間の展示で用意し

た1,200部の動衛研紹介用パンフレットを全て配布し、熱心な技術情報の交換が行われました。

(生産病研究チーム 上席研究員

新井鐘蔵)

